

SPring-8-IIへの期待： 特定放射光施設ユーザー協団体（SpRUC）会長から

特定放射光施設ユーザー協団体（SpRUC）会長 藤原 明比古

1. はじめに（前回記事以降の動向）

前回の記事^[1]では、主に、SPring-8ユーザー協団体（SpRUC）とNanoTerasuユーザー共同体（NTUC）の融合と新生SpRUCの取り組みについて報告をしました。SpRUC最初のイベントである特定放射光施設BLsアップグレード検討ワークショップ^[2]以降、（公財）高輝度光科学研究センター（JASRI）へのSpRUC 動向調査報告書^[3]の提出、SPring-8夏の学校^[4]の後援、特定放射光施設シンポジウム2025^[5]、SPring-8秋の学校^[6]の開催がありました。これらの取り組みは参考文献をご参照ください。本号の記事では、SPring-8-IIへの取り組みについてメッセージを届けたいと思います。

2. SPring-8-IIに向けて

SPring-8の高度化（SPring-8-II）が予算化され、技術的議論も本格化しています。これまでSpRUCにて議論してきた高度化後の光源性能や計測技術、利用研究は、その議論がより深化していくことを期待します。本稿では別視点での期待を述べます。

【停止期間中の利用実験】 SPring-8利用者にとって停止期間中の利用実験の確保は死活問題です。利用研究は実施する利用者自身が対策することが原則ではありますが、利用者のみでの情報共有、交通整理には限界があります。効果的な推進には施設やコミュニティの関与が非常に大切です。SpRUCはその一端を担うべき取り組みを進めてまいりますので、大局的な視点でのご意見、ご要望をよろしく願いたします。

【高度化状況の可視化】 SPring-8の高度化を身近に感じるようになり、同じ兵庫県内にある姫路城の平成の大修理を想起します。特殊技術が集積された施設の維持・発展、建設技術の継承など多くの共通点が見受けられます。数十年に一度の大規模高度化期間中は、前項の利用機会の喪失という側面もありますが、貴重な高度化過程に触れる機会ととらえるこ

ともできます。姫路城の大修理の際にも修理状況の見学の機会もありました。この機会に（見学など）高度化状況を身近に触れる機会があれば、利用者はもちろん、潜在的利用者や納税者に対して非常に良い機会になると期待します。

【再稼働時の利用者の参画】 数十年に一度の大規模高度化の貴重な機会は再稼働に向けた取り組みにおいても同様です。施設者はもちろんですが、利用者、特に、次代を担う若手研究者、学生の参画は、放射光利用研究コミュニティにとって貴重な財産になります。施設にはコミュニティを巻き込んだ再稼働時の取り組みを期待します。

3. おわりに

SpRUCの個々の取り組みの報告は参考文献に譲り、ここではSPring-8の高度化（SPring-8-II）についての期待を述べました。一部は、第22回SPring-8産業利用報告会^[7]でも述べる機会を頂きました。高度化の成功には、利用者、利用者コミュニティ、施設の連携が重要です。より一層、密で風通しの良い議論をお願いいたします。

参考文献

- [1] <https://ssn-info.jasri.jp/volume-01-no1/827/>
- [2] <https://ssn-info.jasri.jp/volume-01-no1/740/>
- [3] <http://www.spring8.or.jp/ext/ja/spruc/report.html>
- [4] <https://ssn-info.jasri.jp/volume-01-no2/883/>
- [5] <https://ssn-info.jasri.jp/volume-01-no3/1042/>
- [6] <https://ssn-info.jasri.jp/volume-01-no3/1046/>
- [7] <https://ssn-info.jasri.jp/volume-01-no3/1038/>

藤原 明比古 *FUJIWARA Akihiko*

関西学院大学 工学部

〒669-1330 兵庫県三田市学園上ヶ原1番

TEL : 079-565-9752

e-mail : akhiko.fujiwara@kwansei.ac.jp